



心の脆弱性を可視化・改善する学際的アプローチ

[キーワード: 臨床心理学, 認知神経科学, 認知行動療法, fMRI, うつ病, 人工知能]

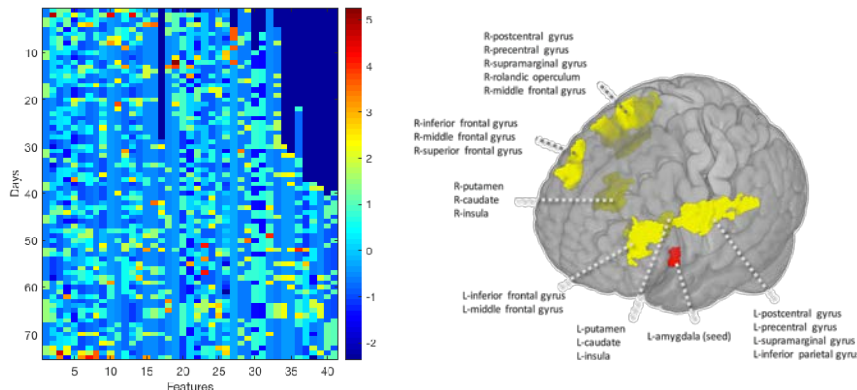
特任講師 山本 哲也

<研究の概要>

臨床心理学(認知行動療法)と認知神経科学の観点に基づきながら、「抑うつや不安をもたらすさまざまな脆弱性を可視化し、介入方法を創出すること」を大きな研究目標としている。具体的には、以下を主要な研究テーマとして、奈良先端科学技術大学院大学、ピッツバーグ大学、広島大学をはじめとした、他機関との連携を通じた共同研究を進めている。

- ①人工知能技術を活用したライフスタイルの可視化と行動変容法
- ②うつ病をもたらす認知的・生物学的脆弱性の可視化
- ③脆弱性を直接的に変容する行動的介入方法の創出
- ④困難状況における適応・回復をもたらす「レジリエンス」の生物学的基盤

現在は特に、様々なモダリティのライフログデータやアプリ、センシング機器などを活用し、臨床応用を視野に入れた健康増進の行動変容法の開発に焦点をあてた研究を行っている。



約70日間分のライフログデータによる行動習慣の可視化

抑うつの保護因子となりうる、扁桃体を起点とした機能的結合性

<主要研究業績>

- ・山本哲也(2016年)『絶対役立つ臨床心理学』(分担執筆「認知行動療法—エビデンスにもとづくアプローチ」)ミネルヴァ書房
- ・山本哲也(2016年)『マインドフルネス—基礎と実践—』(分担執筆「マインドフルネスとストレス脆弱性」)日本評論社
- ・山本哲也(2018)「神経認知療法—神経科学は認知行動療法を増強する—」『認知療法研究』, 日本認知療法学会, 印刷中
- ・山本哲也(2018)「臨床応用を学ぶ—神経認知療法・神経行動療法」『臨床心理学』18巻1号, 金剛出版, 45-47.
- ・Yamamoto et al.(2017)「Increased amygdala reactivity following early life stress: a potential resilience enhancer role」『BMC psychiatry』, BMC,17:27, 1-11.
- ・Takamura...Yamamoto et al.(2017)「Patients with major depressive disorder exhibit reduced reward size coding in the striatum」『Progress in neuro-psychopharmacology&biological psychiatry』, Elsevier, 79, 317-323.

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

- ・認知課題, 生理指標, 機械学習を用いた心理学研究全般

専門分野 : 臨床心理学・認知神経科学

E-mail: t.yamamoto@tokushima-u.ac.jp

Tel : 088-656-7617

Fax : 088-656-7617

HP : https://researchmap.jp/tetsuya_yamamoto/

詳細情報 : <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/304901/profile-ja.html>

